

子どものことなら全部あすてらすでOK 子育て相談、何でもござれ

妊娠から18歳まで切れ目のない子育て支援が可能に

小郡市議会議員 しんばる善信後援会だより

つなぐ

発行
しんばる善信後援会
小郡市小郡1304-2
0942-73-2123



昨年7月、あすてらすに小郡市の子育て支援拠点、子ども家庭支援センターがリニューアルオープンしました。妊娠期からおおむね18歳までの親子に寄り添い、子育てをあらゆる面から応援していくものです。徐々に体制を整えています。しんばる議員は、親子がもっと楽しめる場所、もっと気軽にいろんな相談ができる場所、笑顔があふれ友だちをつくれる場所にするためどうするか質問しました。

担当課、全員集合

子育て支援に関わる4つの課、子ども家庭支援課、保育所・幼稚園課、子ども育成課、健康課全部があすてらすの1階フロアに集結しました。このことにより、子育て全般、特に支援の必要な子どもと家庭に対し情報を常時共有し、チームとして継続的に親子に寄り添った支援ができるようになります。このことは大きな前進です。

もっと、親子の笑顔があふれる空間に

あすてらすの玄関そばに親子でくつろげる子ども広場「ことこと」ができました



参考：基山町のキッズルーム①

た。木の遊具や絵本コーナーがあり、いつでも親子で遊べるようになっていきます。ただ、まだ利用者は少なくままごとや、カラーボールプールなど子どもの喜ぶ遊び場を工夫すればもっと多くの親子が利用できるようになるでしょう。



参考：基山町のキッズルーム②

遊びがてら、ついでに相談も

子育てに関する様々な相談ができるようにと3つの相談ルームが設けられ、部屋の前には相談中に子どもたちが遊べるスペースもできました。ただいずれの部屋も壁や天井は殺風景で楽しいイラストも飾りもありません。お決まりのお役所

の事務室で、見るからに敷居が高そうです。

相談に来る親の多くは、困ったり悩んだりして助けを求めています。暗い気持ちでいるときにこんな沈んだ空間に入ろうという気になれるでしょうか。

相談ルームにはもっと明るく元気をもらえるような雰囲気が必要です。

もっと言えば、何も相談事がなくても、赤ちゃんの体重をはかりに来たついでに顔見知りの職員とことばを交わすなど気軽にコミュニケーションができる場になればいいと思います。



現在の相談室

市の担当者は、他自治体を参考にしたり子育て中の親や市民の意見を聞いたりしながら「市役所っぽく」と協議を重ねています。

市内4小学校にサポートルームできる

学校に子どもの居場所をつくらう

教室に入るのつらい子、自分のペースでいいよ

昨年9月から、小郡、東野、三国、希みが丘の4小学校に教室に入りづらい子どもたちの居場所となるサポートルームが設置されました。不登校気味の子や、不登校から復帰しようとしている子たちに居場所と学習機会の場を提供する目的です。3か月たち、子どもや保護者にとどのような変化がみられるようになったか質問しました。

5年で3.2倍 小学校の不登校急増

全国で不登校児童生徒数が急増し、30万人を突破しました。特に小郡市の小学校は、全国や福岡県の平均より多く大きな課題となっています。その原因は様々で対処の仕方もそれぞれに異なります。小郡市は、このような不登校気味の子どもの一人ひとりに早期に対応するため9月から市内4小学校にサポートルームを設け、専任の支援員を配置しました。

これまで、保健室や別室サポートルームができたことで、それぞれの子どもや保護者に対し、よりきめ細かい対応ができるようになってきたと好評です。

一番大切なことは 安心できる場所



小郡小のサポートルームは「COZYルーム」（くつろげる部屋）といい、子どもたちがだれにも気兼ねなく自分の気持ちがいちばん落ち着く場所になっています。まずここにこれたことを喜び、それから子ども自身が教室に行くかどうか選ぶことを大事にしています。焦らず、子どもの自立の芽を育てていこうとしているようです。



学校が「〇〇をしなればならない場所」ではなく「安心できる居心地のいい場所」になることが大切だと思います。実は、これら全ての子どもにとっても大切にされなければならぬことです。

できなくてもいい、 失敗してもいい

学校は学ぶところというのは当たり前です。でも「学ぶ」ということは「正解」を得ることと同じではありません。むしろ間違ふことがたくさんあります。不登校気味の子どもたちは、その大切さをわれわれ大人

に教えてくれている気がします。サポートルームでは、その子の得意なことを時間制限を設けずにできるようにし、自分で選び、自分で決めることを尊重しています。その根底には、大人はまずその子を信じ、互いの信頼関係を何より大切にしたいという考えがあります。

保護者に寄り添う

わが子が不登校になった時、多くの保護者は戸惑い悩み、自分を責めます。中には、仕事をやめざるを得なかった人も多くいます。親自身が精神的に追い詰められ孤立するケースも少なくありません。このような親に寄り添い、一緒に考えていく人がそばにいることがとても大切です。今回できたサポートルームには、支援員のほかにスクールソーシャルワーカーもいて、いつでも親の相談に乗れるようになっていきます。

能登の被災者を忘れない



昨年の元旦に能登半島を襲った地震から1年が過ぎました。道路が寸断され、インフラの復旧も進まない中、9月には追い打ちをかけるように豪雨水害に見舞われました。「これで心が折れた」と、うなだれる被災者には、かけることばもありません。私たちにできることは、せめて能登で歯を食いしばって生きている人々の心情を想い、忘れず自分にできるやり方で応援し続けることです。

災害とともに生きるしかない

今年の1月17日は、阪神淡路大震災から30年目となります。あの時以降、2011年3月11日には東日本大震災、2016年4月14日には熊本地震、そして毎年のように台風や豪雨災害が続きました。私たちの国はつくづく災害の多い国だと思いが知らされます。

残念ながら災害から完全には逃れられません。できることは、いかに被害を減らすか、被災後の復興をどうするかです。

能登を応援しよう

能登では、災害関連死を含めて505人が亡くなられています。住まいや働く場がなくなり多くの人がやむなく地元を離れています。この先、能登の物産を買い、旅行に行き、寄付をし、それぞれができる範囲で応援していきたいと思えます。

無実の罪晴らす「再審」制度改革を 再審法改正求める意見書 全会一致で可決

袴田巖さん 再審無罪判決をうけて

昨年9月、静岡県で起きた一家4人殺害事件で死刑が確定していた袴田巖さんに44年を経て再審無罪が言い渡されました。この裁判では再審無罪の決め手となった検察の証拠開示のあり方や審理の長期化など、制度の問題点が浮き彫りとなりました。

超党派の国会議員が改正を求める

昨年3月には超党派の国会議員による「えん罪被害者のための再審法改正を早期に実現する議員連盟」が結成され、国において再審法改正についての議論が進められています。冤罪被害者の一刻も早い救済のためには速やかな刑事訴訟法の改正が必要です。今回、小郡市議会でも再審法改正を求める意見書が全員賛成で採択されました。

この1さつ



問宮林蔵

吉村 昭 著

日本の最北端、北海道宗谷岬の北にサハリン島があります。かつて樺太と呼ばれていました。そのサハリンとシベリア沿海州の間には狭いところはずか7kmの海峡があります。この海峡は問宮海峡と名づけられ

ています。江戸時代後期、初めてこの地を探検し海峡を確認した問宮林蔵にちなんで命名されたものです。林蔵は測量術を伊能忠敬に学び、苦難の末、北海道と樺太の地図を作り上げました。北海道の先住民アイヌ

の人々の協力を得ながら原生林に分け入り、未知の世界に飛び込む探求心は驚異的です。当時、北海道への野心を募らせていたロシアの動きなど世界情勢やシーボルト事件へのかかわりなど興味つきない内容です。

議員20年目を迎え、ともすれば自分の日常に安住しがちです。新年にあたり、改めて困っている市民の痛みを想像する力を持ち続けなければと自らに言い聞かせています。(よし)

クリーンヒル宝満 (ゴミ焼却場) 溶融メタルが高い 収入増え、負担金が軽減

ゴミ焼却炉がお金を生む

クリーンヒル宝満は、小郡市、筑紫野市、基山町が共同で出資しているゴミ焼却場で、九州自動車道基山パーキングのすぐそばにあります。毎日パッカー車で収集された大量の生ゴミが超高温で処理されています。

この処理の過程で溶融メタルを取り出されます。この中には、鉄、銅、ニッケルの他にわずかながら銀や金も含まれています。これは業者に売却され大きな収入になっています。令和5年度は溶融メタルの価格が上昇し約4000万円アップの9200万円にもなりました。

また、焼却熱で発電した電気の売電価格も上がり収入は2億2千万円以上にもなっています。この結果、小郡市の負担金は1億6千万円以上が軽減されました。



クリーンヒル宝満

ゴミは捨てれば「リサイクルすれば資源

クリーンヒル宝満では、持ち込まれるさまざまな廃棄物から資源として使えるものを取り出し売却しています。溶融メタルの他に鉄、アルミなど、その総額は、1億7千万円以上にもなっています。

また、小郡市は全市民の協力で行政区ごとに資源ごみの分別回収を行っています。今ではアルミ缶、スチール缶、新聞雑誌類、ペットボトルなどすっかり定着しています。こうしたたゆまない努力は、資源の有効活用やCO2削減など環境保護にも大いに役立っています。

他人の痛みを想像する力

議員の役目は、どうやって市民の安心安全な暮らしをつくっていくかにつきまです。農業や商業の活性化も子育て支援も福祉もみんな、市民が困らないようにするにはどうするかにつながっています。

決して特定のだけかの利益のためではありません。こう考えるとき、議員が一番考えなければならぬのは、市民の中で困っている人、助けを求めている人のことです。ひよつとしたら明日食べるものがない人がいるかも知れない。子どもいるかも知れない人がいるかも知れない。